

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-106	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	日探707	高等学校 日本史探究		

1. 編修の基本方針

- 歴史学習の基本となる知識を身につけ、そのうえで歴史の大きな流れを理解できるようにした。
 - 本文内容は、基礎をおさえられるように、通史理解に必要な情報量を担保できるようにした。歴史の連続性に気づかせ、その展開が順序だてて理解できるように、時系列の構成とした。ただし、その際、1年間で終わられる分量とした。
 - 本文は見やすい見開き構成の紙面とし、本文記述を軸に、注・図版を配して、学習内容を総合的に理解できるようにした。
- 歴史を学ぶ意義がわかるように配慮した。
 - 現代の部分もきちんとテーマ設定をおこない、ていねいな扱いを心がけた。現在の私たちも歴史のなかにいることに気づかせ、生徒に歴史の当事者としての意識をもたせられるようにした。また、現在私たちが直面する現代の諸問題の源流を歴史のなかに見出せるようにし、そこに、歴史を学ぶことの意義や必要性を認識させることができるようにした。日本史学習上の重要テーマについて、それぞれの時代で扱い、その時代背景や社会状況のなかでとらえることで、より深い学習理解がはかれるようにした。
- 持続可能な社会へ向けた課題や役割が理解できるように配慮した。
 - 学習の過程においては、日本国内の事象を扱う際にも、周辺の諸国を含め、大きく東アジアや世界全体の国際的状況を理解し、そのなかで日本を位置づけて考えられるようにした。現在の日本を形成した歴史的過程を世界史的視点から考察し、日本人としての自覚を養い、国際社会で主体的に生きていくことができるようにした。
 - 第5章「現代の日本の課題の探究」のテーマでは、SDGsの17の目標との関連がわかるようにした。
- 主体的・対話的で深い学びにつながる学習に配慮した。
 - 各テーマの冒頭には、テーマの目的を示した問いかけの文章を入れ、学習の指標として位置づけた。また、さらにテーマ内においては、適宜、掲載している資料に対して考察をうながす問いを設置し、資料に注意を向けるようにした。そのほか、テーマのまとめの問い（「まとめの問い」）、より学習を深められるようにする問い（「深める」）などを設け、生徒の主体性を意識した学習理解をはかるための問いを構築した。
 - 各章の第1節には、前時代からの転換（変化）を読み解く「歴史的環境とその転換」、その章で扱う時代の特色を想像させる「仮説を立てる」を設置、それぞれ生徒自身が考察し問いを表現できるようにする問いを設けた。また、章の最後には「学習のまとめと探究」を設置し、章の「まとめ」、さらに次への学習をうながす工夫をおこなった。
- 幅広い知識を身につけられるように多面的・多角的学習ができるように配慮した。
 - 幅広い歴史学習をおこなうことができるようにするため、特集ページとして、その時代を理解するうえでポイントとなる事柄に焦点をあてた「クローズアップ」、ある人物の目を通して時代・社会背景を理解する「歴史の目」を設置した。そのほか、人物を紹介する「注目人」、世相や人々の生活のようすなどを紹介する「エピソード」などのコラムを設け、興味・関心をもって歴史学習に取り組めるようにした。
 - 巻頭特集で「歴史学習の準備」を設け、歴史の考察にあたってはさまざまなものが歴史資料となることに気づかせ、歴史的な見方・考え方や、実際にみずからその資料を活用して歴史を考察することができるようにするうえでの資料との接し方や留意点を示した。また、歴史調査・探究活動の手順についても理解できるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭特集 歴史をはじめよう（私たちの時代） 歴史学習の準備（歴史資料と歴史学, 歴史学習の基礎） 日本史学習の重要地域	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちの時代」では、歴史的出来事をみずからの体験と重ね合わせることによって、現在の自分自身の視点から歴史をとらえられるようにし、個人の価値を尊重して創造性を培い、自主および自律の精神を養うことができるように留意した（第2号）。 ・「歴史学習の準備」では、歴史叙述はさまざまな資料の分析がもととなっていることに気づかせるとともに、それぞれの資料の取り扱い方について理解を深め、また、歴史的な見方・考え方についても理解し、今後の歴史学習をすすめていくうえでの基礎的な力を養うことができるようにした（第1号）。 	p. 4～5 p. 6～9
第1章 原始・古代の日本と東アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の前提となる歴史学習に必要な基礎知識を身につけられるようにした（第1号）。 ・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などをもとに、黎明期の日本列島の歴史的環境、原始社会の特色などを理解できるようにするために、幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 ・歴史の歩みにおいては、自然環境とのかかわりが大きいことを理解できるようにし、そこから生命の尊さを学び、なおかつ、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養えるようにすることに留意した（第4号）。 ・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立と諸文化の形成過程、貴族政治の展開と平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などをもとに、原始・古代の政治・社会や文化の特色、律令体制の特色を理解できるようにするために、幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 ・古代において、日本がアジアの国々と密接な関係を持ちながら歴史を歩んできたことを理解できるようにし、その際、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した（第5号）。 ・国家が支配を拡大する過程の学習において、支配されてきた人々・差別されてきた人々の実状を理解し、これを問いなどによって、生徒自身が主体的に考察をおこなうことで、個人としての尊厳や平等などについて理解を深められるようにした（第2号・第3号）。 	p. 16～63 p. 18～31 p. 18～31 p. 32～61 p. 32～61 p. 45, 49, 53, 62・63
第2章 中世の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の前提となる歴史学習に必要な基礎知識を身につけられるようにした（第1号）。 ・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などをもとに、古代から中世への時代の転換を理解できるようにするために、幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 ・歴史の歩みにおいては、自然環境とのかかわりが大きいことを理解できるようにし、そこから生命の尊さを学び、なおかつ、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養えるようにすることに留意した（第4号）。 	p. 64～105 p. 66～77 p. 66～77

	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の成立と展開，産業の発達，宗教や文化の展開などをもとに，武家政権の伸張，社会や文化の特色を理解できるようにするために，幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 ・武家政権の変容，日明貿易の展開と琉球王国の成立，村落や都市の自立，多様な文化の形成や融合などをもとに，地域権力の成長，社会の変容と文化の特色を理解できるようにするために，幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 ・中世において，日本がアジアの国々と密接な関係をもちながら歴史を歩んできたことを理解できるようにし，その際，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第5号)。 ・中世における地域社会の特色を，問いなどによって時代のなかに位置づけられるようにした。また，女性や，いわゆる辺境地域とそこに住む人々の実状を，生徒自身が主体的に考察をおこなうことで，個人としての尊厳や平等などについて理解を深められるようにした（第2号・第3号）。 	<p>p. 78～89</p> <p>p. 90～103</p> <p>p. 64～105</p> <p>p. 81, 83, 95, 97, 98, 101, 104・105</p>
<p>第3章 近世の日本と世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の前提となる歴史学習に必要な基礎知識を身につけられるようにした（第1号）。 ・織豊政権の政治・経済政策，貿易や対外関係などをもとに，中世から近世への時代の転換を理解できるようにするために，幅広い知識と教養を身につけられるようにした(第1号)。 ・歴史の歩みにおいては，自然環境とのかかわりが大きいことを理解できるようにし，そこから生命の尊さを学び，なおかつ自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養えるようにすることに留意した(第4号)。 ・法の制度による支配秩序の形成と身分制，貿易の統制と対外関係，技術の向上と開発の進展，学問・文化の発展などをもとに，幕藩体制の確立，近世の社会と文化の特色を理解できるようにするために，幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 ・産業の発達，幕府政治の動揺と諸藩の動向，学問・思想の展開，庶民の生活と文化などをもとに，幕藩体制の変容，近世の庶民の生活と文化の特色，近代化の基盤の形成を理解できるようにするために，幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 ・近世において，日本がアジア各地やヨーロッパ諸国と密接な関係をもちながら歴史を歩んできたことを理解できるようにし，その際，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第5号)。 ・近世における地域社会の特色を，問いなどによって時代のなかに位置づけられるようにした。また，女性や，いわゆる辺境地域とそこに住む人々の実状を，生徒自身が主体的に考察をおこなうことで，個人としての尊厳や平等などについて理解を深められるようにした（第2号・第3号） 	<p>p. 106～157</p> <p>p. 108～121</p> <p>p. 108～121</p> <p>p. 122～143</p> <p>p. 130～155</p> <p>p. 106～157</p> <p>p. 124・125, 133, 135, 147, 151, 156・157</p>

<p>第4章 近現代の地域・日本と世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の前提となる歴史学習に必要な基礎知識を身につけられるようにした(第1号)。 ・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などをもとに、近世から近代への時代の転換を理解できるようにするために、幅広い知識と教養を身につけられるようにした(第1号)。 ・歴史の歩みにおいて自然環境とのかかわりが大きいことを理解できるようにし、そこから生命の尊さを学び、なおかつ自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるようにすることに留意した(第4号)。 ・明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などをもとに、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解できるようにするために、幅広い知識と教養を身につけられるようにした(第1号)。 ・文明開化の風潮、産業革命の展開、交通の整備と産業構造の変容、学問の発展や教育制度の拡充、社会問題の発生などをもとに、産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成を理解できるようにするために、幅広い知識と教養を身につけられるようにした(第1号)。 ・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などをもとに、第二次世界大戦に至る過程および大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解できるようにするために、幅広い知識と教養を身につけられるようにした(第1号)。 ・占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、平和条約と独立の回復、戦後の経済復興、アジア諸国との関係、高度経済成長、社会・経済・情報の国際化などをもとに、日本の再出発およびその後の政治・経済や対外関係、現在の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解できるようにするために、幅広い知識と教養を身につけられるようにした(第1号)。 ・近現代において、日本がアジア諸国や欧米諸国と密接な関係をもちながら歴史を歩んできたことを理解できるようにし、その際、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第5号)。 ・近現代における地域社会の特色を、問いなどによって時代のなかに位置づけられるようにした。また、北海道・沖縄、アイヌ、女性について、その実状と立場の推移を、生徒自身が主体的に考察をおこなうことで、個人としての尊厳や平等などについて理解を深められるようにした(第2号・第3号)。 	<p>p. 158～281</p> <p>p. 162～173</p> <p>p. 162～173</p> <p>p. 174～227</p> <p>p. 174～227</p> <p>p. 228～247</p> <p>p. 250～279</p> <p>p. 158～281</p> <p>p. 183, 191, 207, 221, 242, 248・249, 252, 254, 269, 272, 280・281</p>
<p>第5章 現代の日本の課題の探究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をふまえ、生徒が主体的に、現代の日本の課題について、諸資料を活用し、多面的・多角的に、地域社会や身の回りの事象を通して考察できるようにした。その際、持続可能な開発目標(SDGs)についても理解を深められるようにした(第1号・第2号・第3号・第4号・第5号)。 	<p>p. 282～287</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 書体はユニバーサルフォントを用いたほか、図版や地図の作成にあたってはすべての生徒にとって学びやすいカラーユニバーサルデザインに配慮した。
- B 5判の紙面を有効に活用するため、ページの開きがよく耐久性も高いPUR製本を採用した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-106	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	日探707	高等学校 日本史探究		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 主体的・対話的で深い学びを実現できるように配慮した。

- 各テーマには、冒頭に、テーマの目的を示した問いかけの文章を入れ、学習の指標を明確に示した。また、テーマ内には、適宜、掲載している資料に対して考察をうながす問いを設置し、資料へ注意を向けさせる工夫をおこなった。そのほか、テーマのまとめの問い（「まとめの問い」）、より学習を深められるようにする問い（「深める」）などを設け、生徒の主体性を意識した学習理解をはかるための問いを構築した。
- 歴史総合科目との関連も意識し、分野・形式の異なるさまざまな資料を取り上げ、資料と接する機会をできるだけ多く与えられるようにした。あえて説明を詳しくせず、みずから考え想像する余地を残した扱い方とした。

2. 歴史学習を効率的にすすめられるように導入部分に配慮した。

- 巻頭特集では、「歴史学習の準備」を設け、歴史資料、歴史調査の方法・手順など、歴史学習や考察に必要な基本的な知識を習得できるようにし、科目の導入として、今後の歴史学習をスムーズにおこなえるようにした。
- 本文の各章の導入には、時代の扉を設けた。時代の扉は、その章で扱う内容を写真・地図などで概観できるようにし、大きな歴史の流れを理解してこれからの学習をおこなえるようにした。また、第1節の最後に「歴史的環境とその転換」、「仮説を立てる」を設けた。「歴史的環境とその転換」は、第1節の内容を受けて、前時代からの転換（変化）を、ビジュアル資料をもとに考えられるようにした。「仮説を立てる」は、さまざまな分野の資料から、これから学ぶ時代の特色を想像できるようにした。また、ここでは明確な答えは求めず、生徒自身がこれから学ぶ学習に興味・関心をもてるようにすることを主眼とした。
- 各章のまとめとして、章の最後に「学習のまとめと探究」を設置した。ここでは、「仮説を立てる」で生徒たちが想像した時代の特色の答えを確かめる位置づけとした。また、単にまとめだけに終わらず、次への考察をうながす工夫をおこなっている。

3. 歴史的な見方・考え方を働かせて学習を深められるように配慮した。

- 巻頭特集「歴史学習の準備」中の「歴史学習の基礎」では、歴史的な見方・考え方として「時系列」「推移」「比較」「つながり」「現在」の5つの視点を示した。これに対応する形で、各テーマの冒頭に設けた問いではこの5つの視点を示した。各テーマの学習では、問いの内容を考えるとともに、具体的表現としての問いの立て方についても理解できるようにした。

4. 興味・関心をもって歴史学習に取り組めるように配慮した。

- 特集ページとして、時代を象徴する事象に焦点をあてた「クローズアップ」、人物の文章や言葉から時代を読み解く「歴史の目」を設けた。さらに、コラムとして、世相やくらし・生活に関する内容を扱った「エピソード」と、人物を紹介する「注目人」を設けた。いずれも読み物的な内容でまとめ、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるようにした。

5. 地域社会の歴史と文化について理解を深められるように配慮した。

- 本文においては、各時代に、琉球・沖縄、蝦夷地・北海道に関するテーマを設置した。
- 特集ページにおいて、各時代の重要地域、時代の特色をよくあらわしている場所を取り上げた。また、地域に特化したコラム「地域の視点」を設置した。ここでは、単に一地域の事例ではなく、生徒たちが自分たちの住む地域からその事例を探ることができるようなものを題材とした。
- 「学習のまとめと探究」では、さらなる考察をうながす「探究」として、地域に残る資料・遺物・遺跡の活用を提案した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
巻頭特集 歴史をはじめよう (私たちの時代)		p. 4～5	
歴史学習の準備 (歴史資料と歴史学)	—	p. 6～7	1
歴史学習の準備 (歴史学習の基礎)		p. 8～9	
第1章 原始・古代の日本と東アジア	—	—	—
第1節 日本文化の黎明		—	—
①日本列島に人々がやってきた	大項目A－中項目(1)	p. 18～19	1
②環境が変わり、定住生活が始まった		p. 20～21	1
③農耕がはじまってくらしが変わった		p. 22～23	1
歴史的環境とその転換	大項目A－中項目(1)	p. 28～29	1
仮説を立てる (歴史資料と原始・古代の展望)	大項目A－中項目(2)	p. 30～31	
第2節 ヤマト政権と律令国家の形成		—	—
①列島にクニが現れた		p. 32～33	1
②巨大古墳がつくられる		p. 34～35	1
③ヤマト政権の支配が列島を覆う		p. 36～37	1
④争乱のなかから国家が生まれる	大項目A－中項目(3)	p. 38～39	1
⑤強力な天皇が登場する		p. 40～41	1
⑥法律が人々のくらしを変える		p. 44～45	1
⑦国内が不安定になり仏教に安定を求める		p. 46～47	1
⑧きびしい支配のなかで懸命に生きる		p. 48～49	1
第3節 律令国家の変容		—	—
①平安京がつけられた		p. 52～53	1
②長く続く都と教えが成立した		p. 54～55	1
③貴族による政治がおこなわれた	大項目A－中項目(3)	p. 56～57	1
④受領によって地方支配が再編された		p. 60～61	1
学習のまとめと探究		p. 62～63	1
第2章 中世の日本と世界	—	—	—
第1節 中世への転換		—	—
①院政がはじまった	大項目B－中項目(1)	p. 66～67	1
②平清盛が政治権力をにぎった		p. 68～69	1
③鎌倉に新たな武家政権が成立した		p. 72～73	1
歴史的環境とその転換	大項目B－中項目(1)	p. 74～75	1
仮説を立てる (歴史資料と中世の展望)	大項目B－中項目(2)	p. 76～77	
第2節 鎌倉幕府の展開		—	—
①鎌倉幕府の支配が広がる		p. 78～79	1
②武士の土地支配が深まった		p. 80～81	1
③農業が発達し、銭の流通がすすんだ	大項目B－中項目(3)	p. 82～83	1
④モンゴルの脅威がせまってきた		p. 84～85	1
⑤新しい仏教の教えが人々をとらえた		p. 86～87	1
第3節 室町幕府の展開		—	—
①列島全体に動乱が続いた		p. 90～91	1
②守護大名が台頭する		p. 92～93	1
③東アジア世界と交流する		p. 94～95	1
④商品の流通が活気を生んだ	大項目B－中項目(3)	p. 96～97	1
⑤団結して立ち上がる民衆		p. 98～99	1
⑥現代までつながる文化が生まれた		p. 100～101	1
学習のまとめと探究		p. 104～105	1

第3章 近世の日本と世界	—	—	—
第1節 近世への転換		—	—
①各地に戦国大名が現れた	大項目C—中項目(1)	p. 108～109	1
②ヨーロッパ文化の到来		p. 110～111	1
③天下統一がなされた		p. 112～113	1
④秀吉が近世の扉をひらいた		p. 114～115	1
歴史的環境とその転換	大項目C—中項目(1)	p. 118～119	1
仮説を立てる（歴史資料と近世の展望）	大項目C—中項目(2)	p. 120～121	
第2節 幕藩体制の確立		—	—
①強力な江戸幕府が成立した	大項目C—中項目(3)	p. 122～123	1
②蝦夷地と琉球には独自の文化があった		p. 124～125	1
③幕府は海外渡航を禁止した		p. 126～127	1
④統制されながらも人々は宗教を必要とした		p. 128～129	1
第3節 幕藩体制の展開		—	—
①武士の役割が変わった	大項目C—中項目(3)	p. 130～131	1
②世の中の役割分担がすすんだ		p. 132～133	1
③産業の発達の人々の郷土意識をうながした		p. 134～135	1
④巨大都市が現れた		p. 136～137	1
⑤商品経済社会がやってきた		p. 138～139	1
⑥京・大坂から新たな文化が発信された		p. 140～141	1
第4節 社会の変化と幕府の対応		—	—
①幕政の改革がはじまった	大項目C—中項目(3)	p. 144～145	1
②幕府や藩に対し人々の不満が爆発した		p. 146～147	1
③せまってくる外国船		p. 148～149	1
④庶民文化が列島に展開した		p. 150～151	1
⑤新時代の予兆を示す学問・思想が登場した		p. 152～153	1
学習のまとめと探究		p. 156～157	1
第4章 近現代の地域・日本と世界	—	—	—
第1節 近代への転換		—	—
①幕藩体制が揺らぎはじめた	大項目D—中項目(1)	p. 162～163	1
②黒船がやってきた		p. 164～165	1
③日本国内が動乱をむかえた		p. 166～167	1
④江戸幕府が崩壊した		p. 168～169	1
歴史的環境とその転換	大項目D—中項目(1)	p. 170～171	1
仮説を立てる（歴史資料と近代の展望）	大項目D—中項目(2)	p. 172～173	
第2節 近代国家の形成		—	—
①新しい時代の夜明けをむかえた	大項目D—中項目(3)	p. 174～175	1
②富国強兵がめざされた		p. 176～177	1
③欧米の考えが入ってきた		p. 178～179	1
④日本の国境が定まった		p. 182～183	1
⑤国家への不満は人々を行動に走らせた		p. 184～185	1
⑥不況が農村に変化をもたらした		p. 186～187	1
⑦憲法が制定され、国会が開かれた		p. 188～189	1
⑧家と地方の有力者が国家を支えていった		p. 190～191	1
第3節 国際関係の推移と近代産業の発展		—	—
①条約改正は日本にとって大きな課題だった	大項目D—中項目(3)	p. 192～193	1
②清との対立が深まった		p. 194～195	1
③ロシアとの大きな戦争を戦った		p. 196～197	1
④大陸で日本の勢力が拡大した		p. 198～199	1
⑤政党が存在感を強めた		p. 200～201	1

⑥繊維産業を中心に産業は発展した		p. 202～203	1
⑦近代化は新たな問題を生んだ		p. 204～205	1
⑧近代的な教育制度が整備された		p. 206～207	1
⑨西洋の影響を受けた学問や文学が生まれた		p. 208～209	
第4節 第一次世界大戦と日本		—	—
①民衆が政治を動かしはじめた	大項目D—中項目(3)	p. 212～213	1
②最初の世界大戦に日本も参戦した		p. 214～215	1
③新たな国際秩序がつくられた		p. 216～217	1
④「普通選挙」がはじまった		p. 218～219	1
⑤抑圧からの解放を求めて		p. 220～221	1
⑥新しい文化とモダンな都市が生まれた		p. 222～223	1
⑦学問と芸術に新風が吹く		p. 224～225	
第5節 軍部の台頭と戦争の長期化		—	—
①恐慌の嵐が吹き荒れる	大項目D—中項目(3)	p. 228～229	1
②日本の外交が行きづまる		p. 230～231	1
③軍部の暴走がはじまった		p. 232～233	1
④中国との長い戦いがはじまった		p. 234～235	1
⑤戦争協力体制が強まった		p. 236～237	1
⑥アメリカとの戦いがはじまった		p. 238～239	1
⑦戦争が広がった		p. 240～241	1
⑧戦争が終わった		p. 244～245	1
学習のまとめと探究		p. 248～249	1
第6節 日本の再建		—	—
①日本は連合国に占領された	大項目D—中項目(3)	p. 250～251	1
②新しい国のかたちが示された		p. 252～253	1
③混乱のなかで人々は必死に生き抜いた		p. 254～255	1
④日本は新たな道を歩みはじめた		p. 258～259	1
⑤人々の平和や政治への意識が高まった		p. 260～261	1
第7節 経済の発展		—	—
①豊かなくらしとそのひずみ	大項目D—中項目(3)	p. 262～263	1
②豊かさと中流意識		p. 264～265	1
③新たな戦争にまきこまれた		p. 268～269	
第8節 経済大国とグローバル化		—	—
①高度経済成長が終わりをむかえた	大項目D—中項目(3)	p. 270～271	1
②国民の消費生活が多様化した		p. 272～273	1
③日本と世界は大きく変動した		p. 274～275	1
④混迷する政治と経済		p. 276～277	1
⑤変容する社会のなかで		p. 278～279	1
学習のまとめと探究		p. 280～281	1
第5章 現代の日本の課題の探究	大項目D—中項目(4)	—	—
①消費生活と地域社会の変化		p. 282～283	1
②世界とのかかわりと地域社会の変化		p. 284～285	1
③行事や祭りと地域社会の変化		p. 286～287	1
		計	105